

# 薬連ハイライト

## 年頭所感

新年明けましておめでとうございます。また、旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございます。

現在、自民党国会対策委員会委員長代理として、丁寧な審議を通じ、円滑な議事運営のため力を尽くしています。

さて、医療技術の進歩・高度化など、医療を取り巻く環境が変化している中で、医薬分業は量から質の時代へと移り、薬剤師として求められる役割が変化しています。一方で、薬局における業務については、政府の会議の中でも様々な意見が出されていますが、国民から信頼される薬剤師としての取組が求められています。

世界にも例のない少子高齢化が進むなか、国としては社会保障制度を維持していくためにも、医療・介護・生活支援等を包括的に確保する「地域包括ケアシステム」を構築することが喫緊の課題となっています。

在宅を含め、患者の療養の場が多様化する中で、有効で安全な薬物療法を切れ目なく継続的に患者が受けられるようにすることが必要であり、そのためには、患者から選ばれた「かかりつけ薬剤師」として、医療機関等と連携し、医療・介護の一翼を担い、大いにご活躍いただくことを期待しております。今

自由民主党国会対策委員会委員長代理  
衆議院議員

## 松本 純



後は特に病院薬剤師と薬局薬剤師の連携が重要となると考えており、入退院時における患者の服薬状況等の情報共有のほか、外来では、がんの薬物療法をはじめとして専門性が高い薬物療法に薬局薬剤師が関わる機会が増加している中では、オール薬剤師として連携しながら地域の患者を支えていくことが求められます。

また、高齢化が進み、国民の健康意識が高まる中で、健康寿命の延伸のために、病気を予防するための健康づくりも重要であり、「健康サポート薬局」の取組を通じて、健康に関する相談に幅広く対応し、適切な専門職種等につなぐこと等の取組が大切です。

現在、厚生労働省では、医薬品医療機器等法の前回の改正が施行されてから5年後の見直しに向けて、制度改正の検討が進められており、その中の検討課題として、薬剤師・薬局のことが取り上げられています。皆様方には、薬剤師が担うべき職能や今後の薬局のあるべき姿について、将来の社会の中で必要とされる姿を見据えて、この機にあらためて考えていただくことが必要です。

そして、経済再生には、政治の安定が不可欠で、経済を引き上げることやその経済成長の上で社会保障制度が堅持されなければならないことを胸に本年も全力で頑張っ

## 年頭所感

新年明けましておめでとうございます。日本薬剤師会の会員の皆様には、お健やかに新たな年をお迎えることと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、診療報酬の改定が行われ、診療報酬本体はプラス改定となりましたが、薬価については1.65%の引き下げとなりました。調剤報酬では、「かかりつけ薬剤師指導料」及び「かかりつけ薬剤師包括管理料」の点数引き上げや「地域支援体制加算」、「服用薬剤調整支援料」等の新設など、薬局における対人業務や在宅業務などの地域医療への貢献をより高く評価するものとなりました。

また、いわゆる大型門前薬局の評価の適正化、いわゆる同一敷地内薬局の調剤基本料を引き下げるなど、「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けて、すべての薬局が「かかりつけ薬剤師、薬局」としての機能を発揮していくことへの大きな期待を示すと同時に、病院敷地内への保険薬局の設置や誘致の動きに警鐘を鳴らすものとなりました。

しかしながら、病院敷地内への薬局設置や誘致の

自民党組織運動本部 本部長代理  
参議院議員

## 藤井 基之



動きは収まるどころか、さらに広がる様相を見せています。この問題に関しては、昨年の参議院厚生労働委員会でも取り上げ、いわゆる大型門前薬局とか、セルフメディケーションの拠点となる地域の薬局等、様々な機能をもつ薬局を一律に評価するのではなく、その機能に応じて評価することを提案しました。併せて薬局のガバナンスの強化や薬局開設者の厳格化等も要請しました。

厚生労働省は、昨年の厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会において、革新的な医薬品・医療機器への迅速なアクセスの確保、薬局・薬剤師のあり方等のテーマについて検討を行い、その議論を踏まえ、薬機法、薬剤師法の見直しを進めています。

制度改正が行われたとしても、薬剤師・薬局の地域医療での役割は、社会の高齢化、医療の高度化に伴い、一層高まるものと思います。

薬剤師の先生方の益々の活躍をご期待申し上げ、年頭のご挨拶と致します。

## 年頭所感



自民党環境部会長  
衆議院議員

### とかしき なおみ

明けましておめでとうございます。

山本信夫会長をはじめ薬剤師の先生方におかれましては、健やかに新年をお迎えになりましたことと心よりお慶び申し上げます。

さて、私は皆様の力強いご支援のおかげで厚生労働副大臣・環境副大臣を経験させて頂き、現在は自民党環境部会長を拝命しております。

2つの副大臣を経験して分かったのは、両者には異なる能力が求められることです。端的に言えば『厚労は調整力』『環境は外交力』です。

厚生労働の仕事は、目指す方向が共有出来ていても立ち位置によっては利益相反が起こりえるので、絶対的に調整能力が必要となります。

環境の仕事は、1国だけ取り組んでもあまり意味はなく、地球規模の視点が必要です。世界の中でどこに我が国のポジションを取るのか、常に考えながら作戦を組み立てて諸外国と対峙する。俯瞰し、長い時間軸で物事を見る力を養われた気がします。

そして環境副大臣に就任した時に必ず実現しようと思ったことがありました。それは「厚労と環境を繋ぐ仕事」を具現化することです。その一例が働き方改革の評価軸に、『CO<sub>2</sub>削減』を加えることです。環境に取り組んでいる企業が社会から高い評価を受け、労働生産性も高めている点に着目し、「通勤を公共交通にする」「在宅勤務でテレワークにする」「残業を減らす」「オフィスでのエネルギー消費を減らす」など企業が普段取り組んでいるCO<sub>2</sub>削減を簡単に数値化できるツールを作成しました。環境問題は心ある企業だけでなく、少しでも多くの企業に取り組んで頂ける様に環境整備することが重要と考えました。

これからも「厚労と環境を繋ぐ仕事」を私の政治家としてのライフワークにしていきたいと思っております。

自身の責務である厚労行政にはこれまで通り薬剤師の国会議員として取り組みながら、党環境部会長としてこれまで以上に全力で職務に邁進していく所存です。

## 年頭所感



衆議院議員・薬剤師

### 逢坂 誠二

明けましておめでとうございます。

山本信夫会長をはじめ、日本薬剤師会会員の先生方におかれまして、お健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日頃より、逢坂誠二の議員活動に対し、特段のご支援とご協力を賜り、改めてお礼申し上げます。

逢坂誠二は、現在、衆議院予算委員会の野党筆頭理事、法務委員会委員などを拝命しております。党においては、政調会長代行を拝命し、立憲民主党の政策の実務的な責任者を務めています。

日本薬剤師会会員の先生方のご要望されている事項の実現に向けての努力は言うまでもありません。私たち国会議員の責務は、法律を作ると同時に、行政府の動きをしっかりと監視し、行き過ぎを抑え、不十分な取り組みを促すなどの役割を負っています。政府の政策には、福祉・社会保障予算の削減などの負の側面も含まれており、監視と是正をしっかりと行っていかなければなりません。

昨年、政府は、「骨太の方針」で社会保障費の自

然増の抑制などが不可欠であるとの見解を示しましたが、疾病への罹患は一人一人の経済状態とは関係のないものであり、国民が安心して生活するためには、社会保障費、特に医療費の増加に対して必要な財源を十分に確保すべきです。

このような現状を踏まえ、国民にとって正しい政治判断がなされるように与野党で議論を尽くし、政府に働きかけることも、薬剤師資格を持つ国会議員としての私の役割だと自覚しております。

本年夏に予定されている参議院議員選挙を経て、薬剤師の代表として「本田あきこ」さんに国政での活動の場が与えられ、ともに仕事ができることを心から祈念いたします。一人でも多くの薬剤師が国会で働く場を得ることを願ってやみません。

本年も微力ではございますが、日本薬剤師会の会員の先生方のために精一杯働く所存でございます。この一年が皆様にとりまして良い年となりますように心からご祈念し、年頭のご挨拶と致します。